

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で、考え理念を作り上げた。		玄関前に理念を掲示し、会議や入社時などに確認しあっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議にて確認しているが、実践に向けて継続して取り組んでいるとは言えない。		日々理念を頭に入れ、実践に向けて取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会時に目につき易い様、玄関に掲げているが、理解してもらっているかわからない。		広報誌などに載せ、理解していただく。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑でとれた野菜を頂いたり、避難訓練などに参加していただき、声を掛け合っている。		畑でとれた野菜を頂いたり、避難訓練などに参加していただき、声を掛け合っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	部落の花見や運動会等に参加し、地域の方と交流をはかっている。		部落の花見や運動会等に参加し、地域の方と交流をはかっている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が部落の集会や清掃、行事等に積極的に参加している。運動会では選手として参加した。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議内で代表者から説明があり、職員と共に話し合いを行い、改善に向けて努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年2回実施した。各それぞれの立場から意見を交換し、情報を共有する良い機会であった。会議で話し合いを行い、そこで出た意見を今後のサービスの向上に取り組めるよう努力をしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会の主催する勉強会や会合に出席して、情報を共有したり他事業所へ出向き、専門家に指導していただくなど、サービスの向上に取り組めるよう努力をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に出席した職員が会議内で内容を報告して、知識を共有したり話し合いを行ったりしている。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の研修に参加したり、グループホーム協議会の会合等で勉強会や意見交換を行い、確認しあっている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解、納得した上で契約や解約をしているようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口も設置しており、入居説明時に伝えている。重要事項説明書を玄関に貼っており、公的窓口の紹介等はすぐ対応できる体制でいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	病院受診の結果や特変時、面会が少ない場合など月に2～3回は電話にて報告。また、面会に来られた際、日頃の状況を伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、声かけをし意見や要望を言っていただくように努めている。苦情届けを作成し事務所に保管し、話し合う場を設け、改善へと努力を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回会議を行い、必要時は随時話し合う場を持ち、提案や意見交換を行い反映できるように努力している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の健康状態により、病院受診や入浴等対応できるように短時間のパートを入れたり、管理者をはじめ全スタッフで応援に駆けつけたり、残業などで調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	就業形態や休日を考慮し、就業継続の支援は努力している。職員交代に対しては、利用者の事がよくわかるまで勤務を重ねるなど、配慮している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に応じた研修を受講し、会議内で研修報告を行い、日々の現場で実行できるように努力している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合や研修会等で同業者と交流する機会が多い。近隣の施設の訪問もお互いしており、救急法等の勉強会も合同で行った。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間外の親睦はしているが、勤務の都合で全員が参加できないこともあり、十分満足できるものではない時もある。だが、時間をずらしたり、別の日にする等して全員が平等に楽しめるよう工夫している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は全職員の状況を把握し、資格所得の為の支援は行っている。随時全職員の個々の意見を文書でもらっている。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係者と連絡を取り情報を収集した上で、本人に無理のない自然な形で面談できる機会を作るようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずホームに見学に来て、入居者の様子やホームの特色、サービス内容を見ていただく。その上で不安なことや求められていることをお聞きして、十分検討しなるべく要望に答えられるよう努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって一番必要な支援が何であるかを見極めてから、サービスの利用を家族とよく話し合って検討していくようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居という形をとっており、馴染んだ上で納得して入居していただいている。入居当初は家族と相談しながら面会、外出、外泊の機会を作るなど協力していただくようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も共に買物や食事作り、後片付け、洗濯物たたみ、散歩、体操など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さなことでも楽しみを持って生活していただけるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、日頃の本人の状態を報告したり、相談に乗ったりしている。あまり面会に来られない家族には簡単な広報誌を郵送したり、電話を入れて近況を知らせるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等に参加して頂き、本人と共に喜びあう機会を作り楽しい一時を過ごしていただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊、旅行は自由にされている。多い人で週1～2回の方もおられる。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ささいなことで小競り合うこともあるが、スタッフが仲立ちとなって場を取り持ち、お互いの関係を保てるよう努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関に入院のまま退去に至った入居者には、職員が交代でお見舞いに行ったり、なくなった家族へ季節の便りを出すなどして関係の継続を大切にしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に言葉かけや、表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行っている。		本人に言葉かけや、表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より、生活歴や馴染みの暮らし方生活環境の情報をいただいている。その後、本人様とお話し、確認している。		入居時にご家族様より、生活歴や馴染みの暮らし方生活環境の情報をいただいている。その後、本人様とお話し、確認している。新たにたくさん情報を得ていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの過ごし方を把握し、対応している。		過ごし方を把握し、手伝っていただける事には、声かけなどしながら、一人ひとりに対応する。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の方と話し合い、スタッフのケアプランに関する達成点、問題点の意見を把握しながら、作成している。		ご家族の方と話し合い、スタッフのケアプランに関する達成点、問題点の意見を把握しながら、作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化は、生じていない。ご家族様の要望の見直しは、すぐおこなっており、新たな計画を作成している。		すべての見直しについて、介護計画をすぐに作成する。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの問題点、達成点を個別の記録とは、別に設け、記録している。		ケアプランの問題点、達成点を個別の記録とは、別に設け、記録している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望に、できる限り対応している。		要望に加えて、温泉に行くなど、家族とすごしているような、気持ちになれるように支援していきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の時には、ボランティアの方にきていただいている。(夏祭り、三味線の慰問)		行事の時には、ボランティアの方にきていただいている。(夏祭り、三味線の慰問)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば、対応していきたい。		必要があれば、対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	お話を伺ったことはない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態を詳しく報告し、本人の意向も加えてスタッフが、伝えている。		入居者の状態を詳しく報告し、本人の意向も加えてスタッフが、伝えている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師に相談している。状態によっては、受診をしている。		認知症に詳しい医師に相談している。状態によっては、受診をしている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院の看護師に気軽に相談できる関係にある。		かかりつけ病院の看護師に気軽に相談できる関係にある。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、病院にこまめに足を運び、病院関係者との情報交換に努めている。		入院された場合は、病院にこまめに足を運び、病院関係者との情報交換に努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や家族の方と、繰り返し話し合いをし、対応を決定している。		かかりつけ医や家族の方と、繰り返し話し合いをし、対応を決定している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々変化していかれる入居者の状態について理解し、穏やかに暮らしていただくよう対応している。		終末期に向けた話し合いはなかなかできていない。これから終末期を迎えられることを想定して話し合いを設けなければならない。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と情報交換を行い、馴染みのものをもってきていただいたり、穏やかに過ごせる環境をつくり対応している。		家族と情報交換を行い、馴染みのものをもってきていただいたり、穏やかに過ごせる環境をつくり対応している。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーには、充分配慮している。		言葉かけには、十分気を使っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせて説明し、意思決定を促している。		一人ひとりに合わせて説明し、意思決定を促している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。		要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容の方が、ほとんどの入居者の対応をされている。美容室に、ご家族の方の希望で、ご家族といかれたり、スタッフといかれたりしている。		美容室にいきたいという要望を再確認し、一人ひとりに対応していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に、食事準備の皮むきや味付けなど手伝っていただいている。		入居者の方に、食事準備の皮むきや味付けなど手伝っていただいている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みに合わせて、食事を対応している。おやつ等、好みの物をご家族の方が持って来られている。		一人ひとりの好みに合わせて、食事を対応している。おやつ等、好みの物をご家族の方が持って来られている。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の対応は、こまめにスタッフ間で情報を交換し、より良い対応にしている。		スタッフ間だけでなく、本人の意見を取り入れていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り希望にあわせているが、人員配置上、時間の制限がある。		できる限り希望にあわせているが、人員配置上、時間の制限がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人自由に休息したり、眠っていただいている。		一人一人自由に休息したり、眠っていただいている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人に出来る限り対応し、ドライブや買物など支援している。		一人一人に出来る限り対応し、ドライブや買物など支援している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて大金は金庫に預かっているが、ドライブや買い物の時は、好みの物を購入してもらっている。		事務所にて大金は金庫に預かっているが、ドライブや買い物の時は、好みの物を購入してもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限り対応しているが病院受診などあり、一人一人のその日の希望にはなかなか対応できない。		一人一人に対応できるように、工夫していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人希望を伺い、その日にいけない時もあるが、出来る限り行ってみたい所に行く機会を作っている。		温泉に行きたいという希望があり、検討中である。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは、出来ていないのが現状である。年一回年賀状をご家族やご友人へ送っている。		お手紙をもっと書かれるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方や、知人、友人の方も気軽に来訪していただいている。職員とも気軽にお話していただき、庭の野菜の手入れや花の育て方などご指導していただくこともある。		馴染みの関係を維持して、より良い関係を続けていく。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、実践できている。職員の意識も徹底している。		身体拘束をしないということを、常に意識し、介護支援を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに、庭に自由に出ていただいている。外に出られたときは、職員が必ず見守りをしている。		鍵をかけず今まで通りの対応を維持する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して入居者の様子を把握している。プライバシーを考えながら、さりげなく確認している。		昼夜を通して入居者の様子を把握している。プライバシーを考えながら、さりげなく確認している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人持ちのお金等はホームの金庫の中に預かっている。お小遣い帳をつけている。		個人持ちのお金等はホームの金庫の中に預かっている。お小遣い帳をつけている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ一人一人救急講習を受けたり、その他講習会への参加、消防訓練も二回実施している。		スタッフ一人一人救急講習を受けたり、その他講習会への参加、消防訓練も二回実施している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時の応急手当等の研修も受けている。急変時のスタッフ緊急連絡網もできている。		利用者の急変時の応急手当等の研修も受けている。急変時のスタッフ緊急連絡網もできている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回の消防訓練には地域の方、入居者の家族にも参加を促している。		年2回の消防訓練には地域の方、入居者の家族にも参加を促している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に応じてリスクについては、家族との話し合いを持っている。		一人一人に応じてリスクについては、家族との話し合いを持っている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調の変化時は主治医へ速やかに報告し、家族にも報告している。		入居者の体調の変化時は主治医へ速やかに報告し、家族にも報告している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者すべて確薬にし、スタッフが服用させている頓服については管理者に報告し指示を仰ぐ。		入居者すべて確薬にし、スタッフが服用させている頓服については管理者に報告し指示を仰ぐ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医の指示通り、薬の服用やラジオ体操、腹部マッサージを取り入れている。		主治医の指示通り、薬の服用やラジオ体操、腹部マッサージを取り入れている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は入居者一人一人に合わせ、歯磨き、嗽を行う。		食後は入居者一人一人に合わせ、歯磨き、嗽を行う。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、水分をこまめに摂取したり、捕食を行う。それでも栄養が足りない場合は主治医の指示にてラコールを飲用する。		一人一人の状態に合わせ、水分をこまめに摂取したり、捕食を行う。それでも栄養が足りない場合は主治医の指示にてラコールを飲用する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ講習会に参加したり、手洗い、嗽、物品の消毒を徹底している。		スタッフ講習会に参加したり、手洗い、嗽、物品の消毒を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	料理の前は徹底した手洗いの施行。まな板などは毎日漂白、食材も一日ごと買物し、新鮮なものを使用している。		料理の前は徹底した手洗いの施行。まな板などは毎日漂白、食材も一日ごと買物し、新鮮なものを使用している。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花、木を植え、家庭的な雰囲気を作り誰でも入りやすくしている。		玄関周りには花、木を植え、家庭的な雰囲気を作り誰でも入りやすくしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の小物などを飾り、楽しい雰囲気を出している。		季節の花や行事の小物などを飾り、楽しい雰囲気を出している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内も二分割にし、食卓スペース、リビングスペースに分け、気のあった入居者同士過ごせるようにする。		リビング内も二分割にし、食卓スペース、リビングスペースに分け、気のあった入居者同士過ごせるようにする。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスなど持ってこられ、なるべく心落ち着くように配慮している。床には絨毯を敷いたり、床にも座れるようにしている。		自宅で使用していたタンスなど持ってこられ、なるべく心落ち着くように配慮している。床には絨毯を敷いたり、床にも座れるようにしている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については朝の清掃時に窓を開け、換気に努める。エアコンをつけ、天井のシーリングファンにて温度調節をしている。		換気については朝の清掃時に窓を開け、換気に努める。エアコンをつけ、天井のシーリングファンにて温度調節をしている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	二回の入居者に対しては階段と昇降機があり、体調に応じて利用している。一回のスロープは体力作りに活かしている。		二回の入居者に対しては階段と昇降機があり、体調に応じて利用している。一回のスロープは体力作りに活かしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が利用するものについては、大きく見やすい看板をつけている。		入居者が利用するものについては、大きく見やすい看板をつけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に出で草花を見たり、野菜の手入れをしたり、ベランダにて日光浴や景色を眺められたりしている。		庭に出で草花を見たり、野菜の手入れをしたり、ベランダにて日光浴や景色を眺められたりしている。

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない